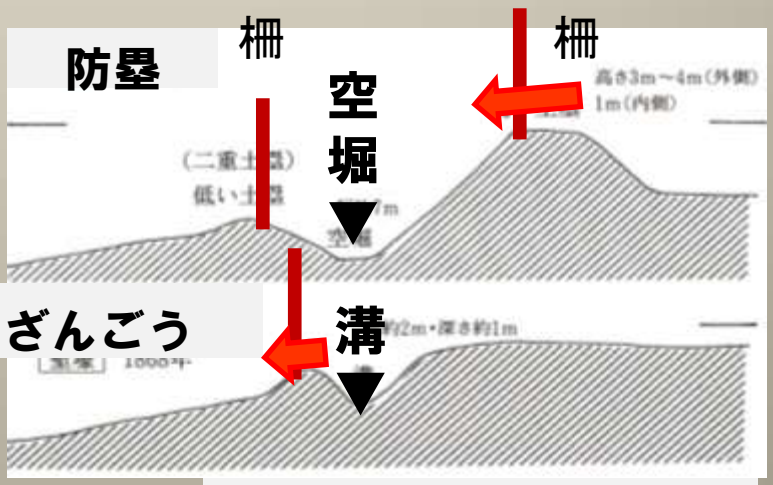
戦国時代の防塁
戊辰戦争の塹壕（ざんごう）とは何か！

「防塁」とは、戦国時代に築かれた人馬の進行を防ぎ、弓と鉄砲で狙うために空堀と土塁によって築かれた防御遺構です。慶長5年（1600）には、上杉景勝・直江兼続によって、徳川家康の上杉討伐に対抗して、福島県内外の峠に多数築かれています。

母成峠防塁跡、馬入峠防塁跡、鶴ケ渕防塁跡、革(皮)籠原防塁跡、九々布城跡、鴫山城跡、佐竹氏陣跡、向羽黒山城、西山城跡などにあります。

慶長5年(1600)　母成峠防塁跡
郡山市・猪苗代町
ここには、関ヶ原の1600年と戊辰戦争の1868年、近世の営林署が築いた3種類の土塁があります。



「二重土塁」とは、前面に低い土塁、後方に高い土塁が二重にあるもので、戦国時代末に築かれた遺構です。

「ざんごう」とは、戊辰戦争直前から造られた鉄砲で狙い撃つため移動できるように築かれた溝です。

皮(革)籠原防塁跡

母成峠塹壕跡

革(皮)籠原防塁跡　福島県白河市白坂

白河市の南湖公園から南に位置する革(皮)籠原(かわごはら)には、慶長5年(1600)に対家康戦のため上杉景勝・直江兼続が築かせた数千メートルの防塁跡が皮籠・石阿弥陀地区に点々と残っています。石阿弥陀地区では、約370メートルが残っています。

文責・写真・図　石田明夫